

第9回 魅力化ワーキンググループ会議 議事メモ

日時:平成20年12月3日(水) 9時00分～12時00分

場所:黒木公民館

○出席者確認

P T A : 近藤安子
家 督 会 : 竹谷 実(欠席)
中 学 校 : 大場尚樹、東 保(欠席)、増本邦雄
教育委員会 : 大西一徳、崎 秀政、吉元 操
島 前 高 校 : 山岡雄一郎、武藤立樹
事 務 局 : 岩本 悠、浜板健一

○協議内容

1、前回(第8回)以降の調査・聞き取りについての情報共有

- ・県教委訪問
- ・西ノ島、海士議会での説明
- ・内航船
- ・昼食アンケート
- ・PTAスタッフ業務内容聞き取り

※上記について事務局から説明

- ・内航船の料金値上げは恐らく決定事項なので、変更は難しいのではないかと。→現行の上乗せ 300 円分を後援会で何とかできないか検討してもらおう。
- ・県の回答では、2 コース制で教員数は増やせない、常勤は難しい。実質、WGの構想のようなカリキュラムは難しい。
- ・非常勤講師を入れるとしても、英語・数学の進度別学習の増員ぐらいではないかと。
- ・現行の選択科目の中で多少色をつけるぐらいしか出来ないのではないかと。
- ・県知事とのランチミーティングに、事務局とIターンの保護者さんに参加してもらい話をする予定。

2、魅力化実行スケジュールについて

- ・夢は大きく、壁は高い。
- ・現在、高校教員も人数が少ない中、十分に教科指導や舎監業務等をしている。寮も生活指導など今、すごくよい状態である。ただ、少人数のための赤字が今後も続くことは不安。ハード面での援助があればよりよくなると思う。
- ・授業料以外の負担(PTA会費、旅行積立金…)が滞る家庭がある。その援助が必要。
- ・今更だが、WGとしてどこまでやればいいのか、コンセンサスをとってから始めるべきだった。
- ・大きな柱(カリキュラム)の実現が困難な中、その他のやれることをやっていくしかない。
- ・10 年先、20 年先を見据えた取組が必要。
- ・魅力ある高校を維持するために継続して魅力化の取組をする必要がある。
- ・ハードルは高いがあきらめれば終わりである。人事を尽くして天命を待つという心境。
- ・隠岐高校の分校にならないよう努力し続ける。
- ・このような地域であるから、カリキュラムについては、地域も一緒に考えたほうが良い。
- ・1 年だけでは何も出来ないから、2、3年続けて成果を出していくことが大切。

- ・教員数加配のための取組がいくつか並列しているが、優先順位をつけて挑戦したほうが良い。
- ・2コース制は引き続き検討していくべきである。
- ・保護者として、コース制が出来なくて残念である。ただ、WGなど会を開くことで地域の関心は高まっている。このような取組を続けることで島前高校の魅力を広げることが出来た。これが島前高校魅力化の大きな取組ともいえる。会に参加してとても良かった。
- ・コース制を県の担当者に話に言っているが、おそらく権限がない方々が話を聞いている感じがする。もっと権限のある教育長や教育監レベルに案を練って話をもっていくべき。
- ・高校から話を持っていくと県教委としては相手にしない。地域からの要望として訴えたほうが良い。
- ・カリキュラム案を作成し、地域の代表として後援会長、副会長が県教委に行ったほうがよい。
- ・県教委に対して引き続き、教員の確保＋コース制の導入を要求し続けるべき。ただ、相手は行政マンなので、行く前に行政の方のアドバイスを受けたほうが良い。

3、推進体制について

※事務局からたたき台を説明

- ・運営協議会推進事業は、地域が手を挙げて県が高校に内諾を取り、県が国へ要望する。
- ・学校評議員制度をやめて運営協議会を導入している学校もある。両方やっているところもある。
- ・学校関係者評価委員会の設置が今年度から義務付けられている。(島前高校では学校評議員＋PTA会長が委員で年度末に会を開催)
- ・運営協議会は事務局の労力が大変である。→すでに事務局が2名いるので大丈夫。
- ・高校教員・保護者のコンセンサスを得るのが難しい。
- ・補助事業が終わってからも後援会の負担が大きい。
- ・運営協議会の目的、協議内容を考えると、高校教員にとって踏み込まれたくない部分を言われるという意識を持つのではないか。
- ・会議が増え、教員、保護者の負担が増えそう。
- ・H21に検討し、高校、保護者、後援会のコンセンサスを得てH22から実施してはどうか。
- ・方向性は良いと思うが、実施に至るまでのプロセスを大事にしなければならない。
- ・安定して機能する体制が必要。高校側と十分な調整をする。
- ・WGとして、答申は構想案までにし、推進体制については、後援会がその取組を進めるのにふさわしい人、仕組みを考えるべき。
- ・1～3月に推進体制をもう一度検討する準備会を開催。

4、今後の予定

・1～3月まで

※4月から実施可能な取組についてWGメンバーに下準備の協力を依頼。